

SQL 処理行時間が遅い時に、SQL センテンス自身に対して確認するポイント

・調査する対象の項目

SQL センテンスの記述内容、実行計画、実行統計、オブジェクト統計、
アクセス対象オブジェクト

・SQL センテンスの記述内容を調査するポイント

- 1) インデックスが使用されるように **Where** 句の条件が記述されているか
IS NULL や NOT IN 句ではインデックスが使用されない 条件式を書換えて対応

・実行計画を調査するポイント

- 1) 表への結合方法は、適切か
- 2) インデックスが複数ある場合、使用されているインデックスが最適か

・実行統計を調査するポイント

- 1) 大量の一時表領域が使用されていて、非効率になっていないか
- 2) 処理時間が短い時と比較して、アクセスするデータブロックが増加していないか

・対象オブジェクトについて調査するポイント

- 1) オブジェクト統計の内容は、事前に更新されているか (統計情報が定期的に更新されているか)
- 2) オブジェクトの統計情報採取後に、大幅なデータ更新が発生して実態と異なっていないか (日時処理などで)
- 3) 列データの分布に偏りがある場合は、ヒストグラム統計を採取した方が良くないか
- 4) インデックスのレコード配置において、断片化が進んで非効率になっていないか

・アクセス対象オブジェクトを調査するポイント

- 1) インデックスを作成した方が、効率がよくないか
- 2) カバーリングインデックス (複合インデックス) を作成して、効率が良くできないか
インデックス ID 値 + 内容値

この2項目でインデックスを作成して、インデックスへの読み込みだけで処理を完結させるようにする